

NUGELP 海外研修 2015 in モンゴル国

海外研修として、8月31日～9月4日にモンゴル国に行ってきました。

1日目の午前は火力発電所を見学し、モンゴルの電力事情について学びました。モンゴルでは首都であるウランバートル市のすぐ横に大きな火力発電施設があります。タービンなどの主要施設を間近で見学できました。

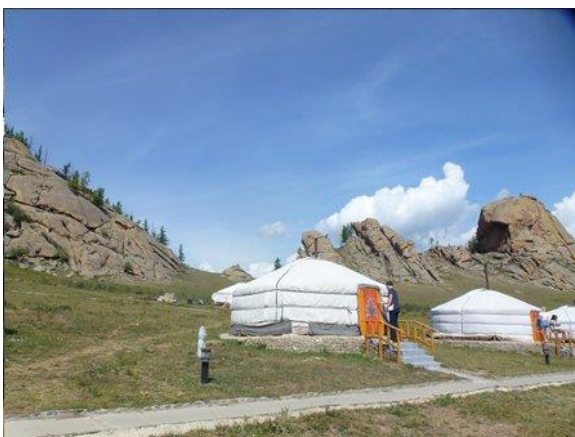


市街地から見える火力発電所の煙突



制御室の見学

1日目の午後からはテレルジキャンプに行き、モンゴルの伝統的な移動式住居であるゲル地区を訪れました。ゲル地区は人工的な建造物が一切なく草原と山々が広がっており、学生達は自然の雄大な風景に感動していました。チンギスハーン像の見学や乗馬体験などを通じて、モンゴルの文化について学びました。夜はゲルに宿泊しましたが想像以上に快適で、遊牧民の生活の中で生まれた様々な知恵や工夫が感じられました。夜には綺麗な星空を見ることができました。



ゲル地区の様子



チンギスハーン像の見学



大自然に囲まれて



“亀岩”のクライミング

2 日目は JICA のモンゴル事務所を訪問し、JICA が携わっている事業についてご説明いただきました。ウランバートル市内では交通事情に大きな問題を抱えており、これらの改善が緊急の課題となっています。また、ゲル地区の保全や環境問題についての課題についても学ぶことができました。午後からは、実際に事業を行った設計コンサルタントの方からお話を伺い、モンゴルならではの課題や施工の難しさ等の貴重な話を聞くことができました。



ODA 事業として建設された太陽橋

3 日目にはモンゴル科学技術大学(MUST)とワークショップを行いました。NUGELP 生の中から 5 名が研究内容についての発表を行いました。各自が行っている研究について、一生懸命に伝えようとする姿勢が印象的でした。また、MUST から 5 名の発表があり、モンゴルの置かれている環境ならではの研究について学ぶことができました。質疑応答では NUGELP 生と MUST の学生間で活発に意見の交換を行う姿が見られました。

今回の視察では、内陸地であるが故の物資輸入における課題や寒冷地ならではの限られた作業期間など、日本とは大きく異なるモンゴルの環境における課題とそれらに対する解決方法について、学ぶことができました。このケーススタディを通じて、国際協力において対象国独自の課題について理解し解決策を考えることの重要性を、改めて認識することができました。また、都市の発展だけでなく、いかにして伝統的な文化や生活スタイルを保存してゆくかということについて考える非常に良い機会となりました。